

様式

第2次福津市都市計画マスタープラン《改訂素案》 市民意見公募によるご意見・回答表

NO	提出された意見（概要）	市（実施機関）の考え方
1	<p>1-①教育施設整備について</p> <p>新たな教育施設を整備するのであれば、都市計画道路「原町津丸線」を開通させて頂きたい。教育施設の工事のためにも必要だと思う。通り堂から福間中までの渋滞がひどいのでその改善にもなると考えられる。</p>	<p>ご意見は、39 ページに図示している等の新たな教育施設の整備を推進する区域の件と推察します。この新たな教育施設の整備推進に伴い、関連する周辺道路や上下水道などのインフラ整備も必要と考えていますが、整備方針等詳細については、ご指摘の都市計画道路「原町津丸線」における未整備部分の整備も含めて現在検討中で、土地利用、道路交通網、地域活性化等総合的に判断して決定することになります。</p>
2	<p>2-①</p> <p>過大規模校緩和のために来年から校区外通学を始めるのは遅すぎる。勝浦小学校での特別認可制度のノウハウがあるはずなので利用すれば良いと思う。</p> <p>特認制度について、広報のみでなく、公式ラインやフェイスブックでも市民にお知らせすべきではないか。</p> <p>市の運営を独自路線で考えるのならば、小規模校から活性化、波及するくらいのアイデアが欲しい。地域と密着した小中学校から活性化を狙うプランやプランディングを考えてほしい。</p>	<p>今回は第二次福津市都市計画マスタープランの改訂した箇所に対するご意見を募集したものであり、提案されたご意見はその趣旨から対象にならないものと考えますが、いただいた考え方等につきましては、所管部署と情報共有し、今後の市政の参考とさせていただきます。</p>

	<p>2-②</p> <p>福津市はSDGsを掲げて地域経済の基盤の確立、農業・水産業の担い手育成、環境保全を謳っているが、本当に担い手を育成するのならば、担い手が収入アップするような波及効果のある戦略を練るべきだろう。現在の市の手法は、今ある資産だけでなんとかやり繰りしようとするから効果が薄い。</p> <p>過疎になりうる地域は、まだ元気うちに農業や漁業の後継者、あるいは住む場所を選ばない職業の人を誘致するビジョンをもっと加速化すべきだろう。</p> <p>理想は地元の小中学校を卒業していった子供達が日本全国、世界を見聞し、最後に地元に戻って還元するようなビジョンを持ってほしい。</p>	<p>今回は第二次福津市都市計画マスタープランの改訂した箇所に対するご意見を募集したものであり、提案されたご意見はその趣旨から対象にならないものと考えますが、いただいた考え方等につきましては、所管部署と情報共有し、今後の市政の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>3-①</p> <p>P36 に示された「新たな教育施設の整備を検討する区域」は福岡県が令和4年5月に指定した「手光今川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）」で0.5m～3.0m未満の浸水想定区域であり、子供たちの生命にかかわり、適当でないと思われれます。</p>	<p>ご指摘のとおり、教育施設の整備を検討する区域は洪水浸水想定区域内に位置づけられています。これは、水防法の規定に基づき、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、水災による被害の軽減を図るため、手光今川が氾濫した場合に、浸水が想定される範囲と水深などを示すもので、福岡県が5月27日に公表しています。水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの方向性として、水災害リスクが存在するからといって都市的土地利用を行わないということではなく、各地域の水災害リスクに加えて、都市構造、都市機能上の必要性、今後の発展性等の要素を総合的に考慮する必要があると考えています。</p> <p>当該地区の教育施設の整備については、想定し得る最大規模の降雨等においても校舎等の施設が被災することが無いようかさ上げ等を行うものとします。なお、想定し得る最大規模の降雨を下回る雨量であっても、手光今川の計画規模の雨量を超える降雨があった場合は、周辺地域での浸水被害の発生も懸念されることから、グラウンドについては雨水貯留機能を持たせ周辺地域の被害の軽減を図ることを目指します。加えて、いざという時に迅速な避難ができるような防災教育の徹底により、児童の生命の安全を確保することとしていますので、教育施設の整備を検討する区域はそのままの位置づけとさせていただきます。</p>